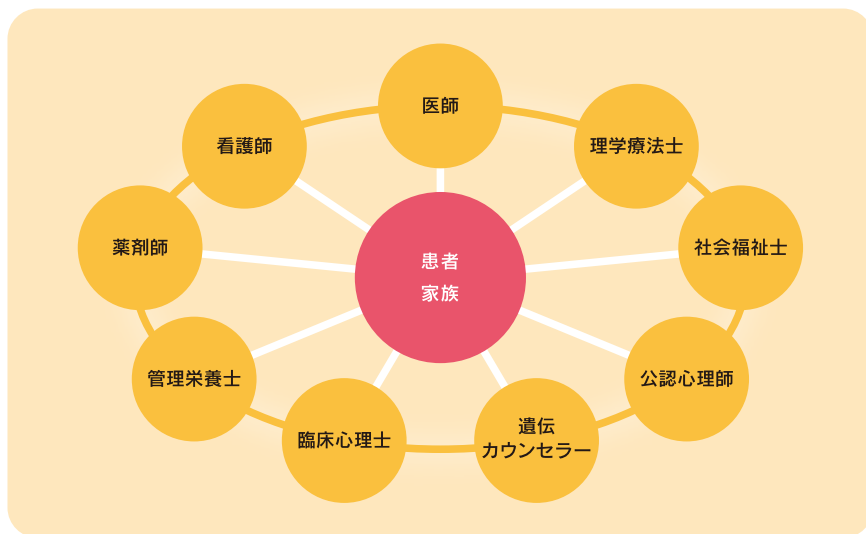


がん診療特集・腫瘍センター&緩和ケアセンター活動紹介

がん患者さんと家族を支える治療と緩和ケア

腫瘍センター センター長 薬師神芳洋
緩和ケアセンター センター長 藤井 知美

薬師神 ● 最新の治療は薬の変遷によって、臓器や進行度によって抗がん剤を使うのではなくってきています。ホルモン剤が乳がんや前立腺がんに使えたり、オプジーボは適合すればどの腫瘍にも使えたりと、現在の抗がん剤は臓器による垣根がなくなってきています。そのため外来化学療法室が設置され、主治医の治療方針に沿って化学療法を行っています。臓器・化学療法の両方に病棟



PROFILE

ふじいともみ◎1993年愛媛大学医学部卒業。麻酔科に入局し研鑽を積み、痛みの治療に携わる。2015年から現職。日本緩和医療学会専門医、日本麻酔科学会指導医、日本ペインクリニック学会専門医。

を分けることでマンパワーを集中させています。緩和ケアセンターについては活動の中心となっている藤井先生から説明をお願いします。

藤井 ● まず「緩和ケア」と聞いたとき、多くの方が終末期医療とイメージすると思います。しかし、がんが疑われるような場合やがん診断時から身体的・精神的苦痛があれば、それを和らげるためのケアとして緩和ケアを行っています。がん治療と緩和ケアは両輪です。緩和ケアの目標は、患者さんの人生を守り、生活の質を改善することです。がんという病気を持つ患者さんが生活の改善をするためにはがんの治療がまず必要ですが、その治療を十分に受けるために痛みを取ったり眠ったり症状を和らげるものが緩和ケアです。

当院の緩和ケアセンターの主な役割は、①緩和ケアチームの運営と②院内外への緩和ケアの普及です。①については、地域がん診療連携拠点病院である当院には緩和ケアチームの設置が必須となっており、がん患者さんへの診療においても必要かつ重要な部門であるとの考えからチームを運営し、入院患者さん



PROFILE

やくしじんよしひろ◎愛媛大学医学部・附属病院教授。医学博士。がん化学療法を専門に活躍する。1993年愛媛大学大学院医学研究科修了。日本血液学会、日本臨床腫瘍学会などの専門医・指導医も務める。

や外来患者さんへの緩和ケアを行っています。②に関しては研修医の方に緩和ケアの研修会を受けていただいたり、緩和ケアの専門外の先生にもそうしたマインドを伝える研修などを行ったりしています。県が注力している在宅緩和ケアにも参画しています。

薬師神 ● 藤井先生には次世代の育成もお願いします。

藤井 ● 薬師神先生が私と同じことを考えていることを初めて知りました。学生や研修医、若手の医師への緩和ケアの普及とともに、私のような緩和ケアの専門医、指導医も育てていかなければいけないと思っています。

薬師神 ● 今回紹介する塩見さん（がん看護の専門看護師）、江口先生（小児科の診療とがんゲノムの両立）の負担も相当だと思います。皆さんにも次世代の育成をしていただきたいですし、病院にも継続する仕組み作りが必要だと考えています。